

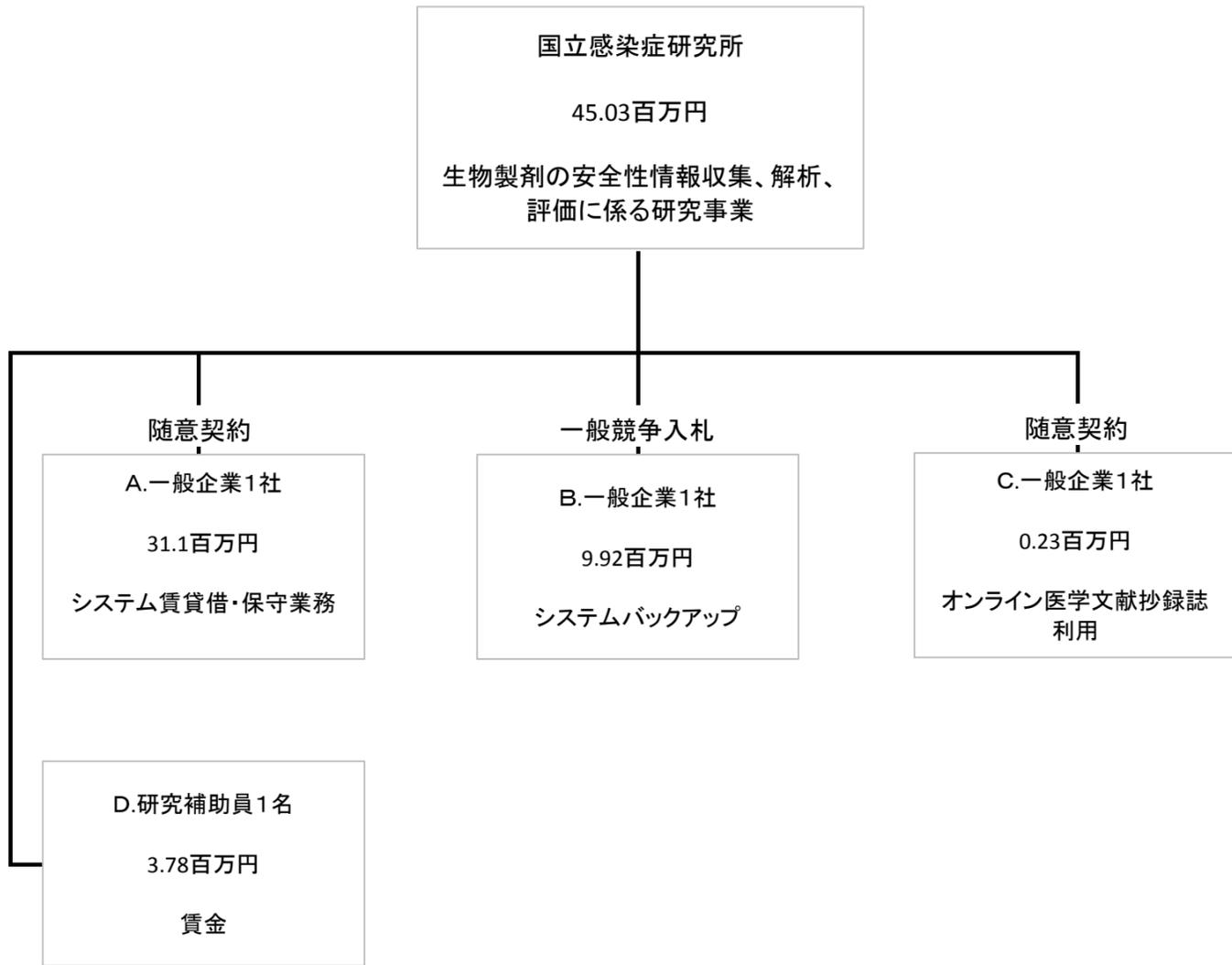
平成25年行政事業レビューシート

(厚生労働省)

事業名	生物学的製剤の安全情報収集、解析、評価に係る研究事業		担当部局庁	国立感染症研究所		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	平成15年度		担当課室	総務部会計課		金山 和弘		
会計区分	一般会計		政策・施策名	XI-1-1 国立試験研究機関の適正かつ効果的な運営を確保する				
根拠法令(具体的な条項も記載)	-		関係する計画、通知等	-				
事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	国内・国外での生物学的製剤に起因する感染症に関する科学及び疫学情報を系統的、持続的、積極的に高感度のシステムで収集し、感染研内の専門家によって、リアルタイムに感染症としての面からの情報のリスク評価を行い、これを厚生労働省担当部局と直ちに共有することにより、速やかな行政対応に繋げ対策遅れによる被害を防止し、国の責務として国民に安全な生物製剤を供給する。							
事業概要(5行程度以内。別添可)	(1)生物学的製剤に起因する感染症に関するインターネット上の科学・疫学情報を学術会議、論文、感染症対策機関からの出版物や発表から系統的・持続的・高感度のシステムで収集し、(2)ページアン公式を使用した先進的言語学的フィルターと情報処理アルゴリズムによる初期解析後登録。(3)事務局が情報内容に基づき二次スクリーニングし、既存の感染症サーベイランスや病原体専門部門からの情報を付加し、登録済み情報を分類。(4)感染研の各病原体専門家がシステム上の登録情報を専門的視点で独自に随時評価し、(5)毎月および随時所内の評価委員会で情報の重要性和影響をリスク評価し、(6)健康危険情報を評価結果および科学的エビデンスをつけ厚生労働省担当部局に報告。							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
予算額・執行額(単位:百万円)			22年度	23年度	24年度	25年度	26年度要求	
	予算の状況	当初予算	66	64	58	54	13	
		補正予算						
		繰越し等						
	計		66	64	58	54	13	
	執行額		66	64	45			
執行率(%)		100	100	77				
成果目標及び成果実績(アウトカム)	成果指標			単位	22年度	23年度	24年度	目標値(年度)
	本事業は治療などに用いられる安全であるべき輸血等の生物学的製剤からかつてのAIDSなどの様に感染症が発生するリスクを、国際的レベルで早期検知、分析、科学的根拠を持って専門家がリスク評価をした結果を行政対応へ反映し、健康被害の未然防止、拡大阻止を図ることで、国民に安全な生物製剤等を供給することを目的としている。不測の事態が発生しないことが成果目標であり、現実に発生していないことが実績である。		成果実績	-	-	-	-	
			達成度	%	100	100	100	
活動指標及び活動実績(アウトプット)	活動指標			単位	22年度	23年度	24年度	25年度活動見込
	活動指標は以下の6項目である。1)自動収集システムによる情報収集量、2)情報収集対象数の拡大、3)自動収集システムの初期分析能力(収集情報の主題合致の感度と特異性の維持)、4)事務局の1日あたりの情報分析・分類等の処理量の維持、5)委員会からの評価結果報告数、6)評価結果報告からの行政的対応の発生件数。ただし、これまでの成果を踏まえ、平成25年度より情報収集方法の見直しを行うため、評価のための収集件数に変更が生じる。しかし、評価結果報告数見込み数については大きな変更は生じない。		活動実績(当初見込み)	1~4) 収集・分析・評価情報件数	2,946,895 (2,500,000)	3,175,633 (3,100,000)	3,089,904 (3,500,000)	- (30,000)
			活動実績(当初見込み)	5) 評価結果報告数	7	7 (-)	9 (5)	- (5)
			活動実績(当初見込み)	6) 行政対応へつなげた件数	1	3 (-)	1 (1)	- (1)
単位当たりコスト	14.5 (円/収集情報件数)		算出根拠					
本事業の成果目標は「国民の安心と健康」であり、予測外の事態を未然に防ぐための対策を支援するため、貢献するほど最終段階の情報当たり単価が上昇することになり、コスト換算は適当でない。活動指標のうち数値的に比較可能なものは、1)情報収集量、5)評価結果の所管部局への報告数、6)報告した情報から情報共有・通知など行政対応へ繋がった件数である。しかし、5)及び6)は国内の生物学的製剤の管理が適正に行われている指標であり、コスト算出には不適当である。したがって、1)の情報収集1件当たりにかかるコストを示す。6つの活動指標に対する事業費の割合を正確に計算することは不可能であるため、コストはあくまで参考と考えていただきたい。 X=平成24年度機器リース料(保守・運用費を含む)および収集に係る情報ソースアクセスの契約料等、 Y=平成24年度 収集情報数(件数)								
平成25・26年度予算内訳	費目	25年度当初予算	26年度要求	主な増減理由				
	職員旅費	0	0	既存システムの廃止による減				
	消耗品費	3	5					
	借料及び損料	49	0					
	賃金	1	3					
	雑役務費	1	5					
	計	54	13					

事業所管部局による点検						
	項目		評価	評価に関する説明		
国 必 要 投 入 の 性	広く国民のニーズがあるか。国費を投入しなければ事業目的が達成できないのか。		○	国民へ提供されている生物製剤の安全性の安全性に関わる情報を把握し、安全な医療材料を提供するため、優先度は高い。		
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。		○	感染症法に基づく国の責務を踏まえ実施している事業である。		
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。		—	—		
事 業 の 効 率 性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		○	会計法に基づき適切に契約を行い、競争性を確保している。		
	受益者との負担関係は妥当であるか。		—	—		
	単位当たりコストの水準は妥当か。		○	少額の契約であっても複数社から見積を徴収し、最低価格で購入するなど、コスト削減に努めている。		
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		—	—		
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○	事業の適切な遂行について、必要な経費に限定されている。		
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		—	—		
事 業 の 有 効 性	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		○	感染症を専門とする唯一の国立試験研究機関として、効果的なコストパフォーマンスを実現している。		
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		○	活動実績は見込みに見合ったものとなっている。		
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○	当該事業の評価報告に基づき、必要な行政対応が執られていることから、成果物は十分に活用されている。		
重 複 排 除	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。 (役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		—	—		
	事業番号	類似事業名	所管府省・部局名			
点 検 結 果	<p>生物学的製剤等に由来する感染症は海外においては発生し拡大している事例がみられるが、我が国においては拡大していない。このことは、本事業による生物学的製剤に起因する感染症情報の収集・分析や厚生労働省への評価報告・情報共有が適切に行われていることの成果と考えられる。従って、平成24年度においては、当初見込みは下回るものの本事業の成果目標、活動目標は達成されている。平成25年度からは、これまでの成果を踏まえ情報収集方法の見直しを行うとともに、事業効果を維持しつつコストの削減を図る。</p>					
外部有識者の所見						
外部有識者点検対象外						
行政事業レビュー推進チームの所見						
現状通り	本事業は、感染症対策の推進に係る試験研究の遂行に必要な経費であり、本事業の必要性及び執行の観点からの評価も概ね妥当であることから、引き続き効率的な執行に努めるべき。					
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況						
現状通り	—					
備考						
関連する過去のレビューシートの事業番号						
	平成22年	631	平成23年	572	平成24年	509

※平成24年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。



資金の流れ
(資金の受け取り先が何を
しているかについて補足する)
(単位:百万円)

費目・使途
 (「資金の流れ」に
 おいてブロックご
 とに最大の金額
 が支出されている
 者について記載
 する。費目と使途
 の双方で実情が
 分かるように記
 載)

A.日立キャピタル(株)			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
借料及び損料	システム賃貸借・保守業務	31			
計		31	計		0
B.日本エス・ジー・アイ(株)			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	データバックアップ	9			
計		9	計		0
C.			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
D.研究補助員A			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
賃金	非常勤職員賃金	3.78			
計		4	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	日立キャピタル(株)	システム賃貸借・保守業務	31.1	随意契約	—
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

B.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	日本エス・ジー・アイ(株)	システムデータバックアップ作業	9.92	1	100
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

C.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	丸善(株)	オンライン文献抄録誌利用料	0.23	随意契約	—
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

D.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	研究補助員A	研究補助業務	3.78	—	—
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					